

SOWING TEE

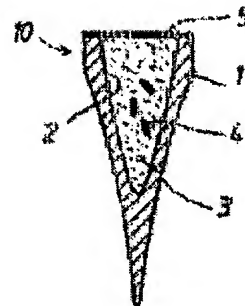
Patent number: JP6133646
Publication date: 1994-05-17
Inventor: YAMAJI TOSHIAKI
Applicant: SANKO SEIKI KOGYO KK
Classification:
- International: A01C1/04; A01G9/10; A01C1/04; A01G9/10; (IPC1-7)
A01G9/10; A01C1/04
- european:
Application number: JP19920287178 19921026
Priority number(s): JP19920287178 19921026

[Report a data error here](#)

Abstract of JP6133646

PURPOSE: To rationalize agricultural works by eliminating the sowing works, the thinning works of germinated seedlings. etc., in the cultivation of vegetables, etc.

CONSTITUTION: The sowing tee is characterized by having a bar-like shape with a sharp tip and receiving seeds in a depressed part formed at the upper part of the tee made of turf grasses. The sowing tees are arranged and received in an arranging container.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-133646

(43) 公開日 平成6年(1994)5月17日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 0 1 G 9/10	C	8502-2B		
A 0 1 C 1/04	Z	8502-2B		

審査請求 有 請求項の数 2 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平4-287178

(22) 出願日 平成4年(1992)10月26日

(71) 出願人 591091179

サンコー精機工業株式会社

大阪府豊中市勝部2丁目18番3号

(72) 発明者 山路 聡明

大阪府豊中市勝部2丁目18番3号 サンコー精機工業株式会社内

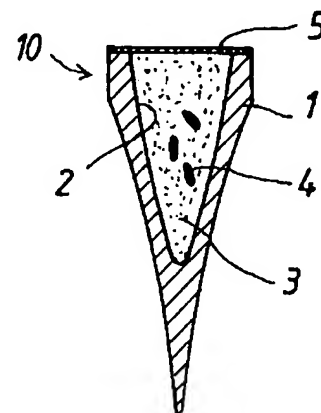
(74) 代理人 弁理士 高木 義輝

(54) 【発明の名称】 種植えティー

(57) 【要約】

【目的】 野菜栽培などで種蒔きし、発芽した苗の間引き作業をなくすなどして農作業の合理化を図ることを目的とする。

【構成】 棒状体で先がとがり上部に凹部を設けた芝製ティーの凹部に種子を収容してなる種植えティーである。整列容器に整列して収容された種植えティーである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 棒状体で先がとがり上部に凹部を設けた芝製ティーの凹部に種子を収容してなる種植えティー。

【請求項2】 整列容器に整列して収容された種植えティー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、種植えティーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来からの野菜栽培においては、盛土の上に適当な量の種子を蒔き散らしている。発芽後の苗は密集部分やまばらな部分があり、そのまま成育させると十分な成育ができにくいので、発育状態の良いものを残し、他の苗を除去する間引き作業が行われている。この間引き作業は、栽培する者にとってはかなりの負担となっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】野菜栽培などで、種蒔きし発芽した苗の間引き作業を無くすなどして、農作業の合理化が求められている。

【0004】

【課題を解決するための手段】そこで、本発明は、上記の事情に鑑み、吸水作用がよく、水分を含んだ時は柔らかくなり破壊されやすい状態となる芝製ティーに種子を収容させて種植えをする。また、本発明は、整列容器に整列して収容された種植えティーである。

【0005】

【作用】本発明は、芝製ティーに種子を収容するので、吸水作用がよく水分を含んだ時は柔らかくなり破壊されやすく、種子の発芽後の根の発育を妨げるものがない。また、本発明は、整列容器に整列して収容された種植えティーであるので、農作業の合理化が容易である。

【0006】

【実施例】本発明を添付する図面に示す具体的な実施例に基づいて以下詳細に説明する。芝製ティー1は棒状体で先がとがり、上部に凹部2を設けてなる。芝製ティー1の凹部には養土3を収容し、その養土の中に適宜個数の種子4を入れ、芝製ティー1の上端面には水溶性の被膜5を張り付ける。

【0007】この芝製ティー1はゴルフ場などで刈り取った芝を原料とする。刈り取った芝を3・4日放置して乾燥させ、枯れ芝とする。この枯れ芝を機械で粉末状にし、粉末芝とする。さらに、粉末芝に成形できる範囲の水分、バサバサした状態になる程度の水を加える。水が少なすぎると粉末芝が一体化できず、水が多すぎると粉末芝がティーの形状に形成できない。原則として水のみ

使用するが、必要に応じて僅かな固化剤や接着剤などを用いることもある。

【0008】続いて、水を加えた粉末芝を型に入れ、粉末芝が型に充填されるように加圧し、ティーを成形する。ここで、ティーの形状は棒状体で先がとがり、上部に凹部2を設けたものであるが、種子に応じてその肉厚を変化させて種子が発芽しやすい形状とする。上記のようにして、図2に示すように盛土11に種植えティー10を差し込むと、芝製ティー1は吸水性に優れているので、水分を吸収し、芝製ティー1が破壊し、芝製ティー1からは根3が盛土11内に出ていき、新芽12が発芽する。

【0009】また、図3に示すように、種植えティー10を整列状に起立させる整列孔21を整列状に穿設した整列容器22に、図4に示すように種植えティー10を差し込むと、種蒔き作業の合理化ができる。すなわち、農機械により整列状態に収容された種植えティー10を所定間隔で土中に挿入させる。すると種植えティー10が土中に整列状に挿入配置され、一定間隔で発芽ができ、間引き作業も不要となり、農作業の合理化ができる。この種植えティー10を用いて1992年9月に大根の種子を用いて発芽率を実験した結果、蒔いた10個のうち10個とも発芽し、100%の発芽率であることが確認されている。大根の他、えんどう、ほうれん草などにこの種植えティー10は使用できる。

【0010】

【発明の効果】本発明は、上述のように、棒状体で先がとがり上部に凹部を設けた芝製ティーの凹部に種子を収容してなる種植えティーであるので、吸水作用がよく、水分を含んだ時は破壊されやすくなるので、種子の発芽後の成育が良好である。また、本発明は、整列容器に整列して収容された種植えティーであるので、農作業の合理化が容易である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の種植えティーの縦断面図である。

【図2】本発明の種植えティーを用いて発芽状態を示す縦断面図

【図3】本発明の種植えティーの整列容器の斜視図である。

【図4】本発明の種植えティーを整列容器に起立させた状態の縦断面図である。

【符号の説明】

2…凹部

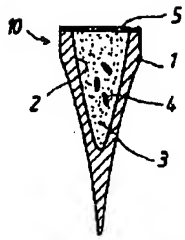
1…芝製ティー

4…種子

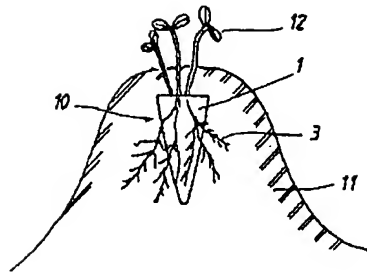
10…種植えティー

12…整列容器

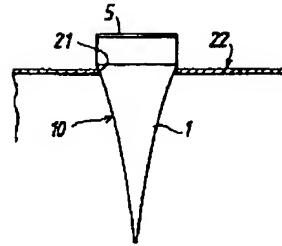
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

